

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	水源地、配水池整備事業	部局名	上下水道局
		課名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	安全で良質な水道水の供給、危機に強く安定供給ができる水道の構築
目標	1 安全・安心な水づくり、1 施設の更新・耐震化
施策	1 適正な浄水処理の実施、1 浄水場・水源地の更新・耐震化、2 配水施設等の更新・耐震化、3 水需要に応じた水道施設の計画的な更新
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	各水源地、配水池の一部には、施設の老朽化がみられ、耐震基準を満たしていない施設も一部存在する。現在、それぞれの施設について順次耐震化及び更新を進めている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	老朽化施設や耐震性能の劣る施設を整備更新すること、さらに低区配水区地域については、3階直圧給水に対応した水圧を確保することにより、より安全で安定した水道水の供給を図る。
対象 ※誰、何に対して	中西条浄水場を除く水源地、配水池、加圧ポンプ場等
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	水道施設基本計画及び施設耐震調査・基本計画(その2)に基づき優先度の高い施設から順次整備更新を進める。

## 【コスト】

		令和3年度(決算)	
事業費合計		846,081	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	415,900	千円
	その他	430,181	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
会	計	資本的支出
款		建設改良費
項		原浄水施設費・配水施設費
目		

## 【コスト推移】

		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計		189,494 千円	1,069,847 千円	846,081 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了 令和3年度には投松ポンプ場更新工事が完了し、事業進捗率が上昇した。現在は福留配水池耐震化更新工事を施工中である。今後も水道施設基本計画等に基づき優先度の高い施設から順次整備更新を進める。
---	---

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
水源地・配水池などの施設	施設	20	16	16

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
整備更新を実施した工事・設計等業務数	件	5	6	5
整備更新を完了した施設数	施設	5	6	7
活動指標分析結果	都台ポンプ場更新工事が令和2年度に完成し、投松ポンプ場更新工事が令和3年度に完成した事により、完了施設が増加した。今後、福留配水池耐震化更新工事が完成すれば完了施設数はさらに増加する見込みである。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
事業進捗率	%	25.0	37.5	43.8	令和13年度	100
成果指標分析結果	令和2年度に都台ポンプ場更新工事、令和3年度に投松ポンプ場更新工事が完成した事により進捗率が上昇した。現在は福留配水池耐震化更新工事(令和6年度完成予定)を施工中である。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	中西条浄水場水質改善事業	部局名	上下水道局
		課名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	安全で良質な水道水の供給
目標	1 安全・安心な水づくり、2 水道水の品質の向上
施策	1 適正な浄水処理の実施、2 消毒副生成物の抑制、3 異臭味対策の強化
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	水道水源となる河川や湖沼には、有機物が含まれており浄水処理の過程で注入される塩素に反応してトリハロメタンが生成される。また、塩素が水中の有機物と反応することで塩素酸・ハロ酢酸等の消毒副生成物が生成される。さらに河川に繁殖される藍藻類などが産出する物質が原因で異臭味(カビ臭)が発生し、これらの対策が必要である。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	トリハロメタンの生成を抑制するため、PHを下げる目的で酸注入設備を整備し、また、消毒副生成物の育成を抑制し異臭味対策を強化する目的で活性炭注入施設を更新することにより、水質の改善を図る。
対象 ※誰、何に対して	中西条浄水場
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	中西条浄水場整備基本計画(その2)に基づき、順次整備していくものである。

## 【コスト】

		令和3年度(決算)	
事業費合計		25,520	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	12,700	千円
	その他	12,820	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
款		資本的支出
項		建設改良費
目		原浄水施設費

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	925,762 千円	0 千円	25,520 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	令和3年度に粉末活性炭注入設備更新工事の実施設計が完了した。令和5年度から粉末活性炭注入設備更新工事に着手する予定である。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
更新対象施設	施設	4	4	4

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
更新工事・設計等業務数	件	2	0	1
更新完了施設数	施設	3	3	3
活動指標分析結果	令和3年度は粉末活性炭注入設備更新の実施設計に着手した。完了施設数については変化なし。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
事業進捗率	%	75.0	75.0	75.0	令和11年度	100
成果指標分析結果	令和5年度より粉末活性炭注入設備更新工事に着手し、完成すれば進捗率は100%となり事業を完了する見込みである。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	水質検査機器更新事業	部局名	上下水道局
		課名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	安全で良質な水道水の供給
目標	1 安全・安心な水づくり
施策	2 水質検査体制の充実
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	水質検査は、中西条浄水場及び水源地の原水及び浄水と各系統の給水栓において水質基準項目51項目等について実施している。また、浄水処理状況の確認のため各工程水の検査及び原水の水質把握のため河川水についても定期的に検査をしている。水質検査は、正確かつ信頼性のあることが求められるため、法定耐用年数を基本とし計画的に水質検査機器を更新する必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質基準項目(51項目)及びクリプトスポリジウム・ジアルジアの検査項目を自己分析できる検査体制の構築及び維持を図る。</li> <li>水質検査を迅速に対応できる状態にする。</li> <li>浄水場や他の水源地の水質検査情報を長期的な視点で把握し、水道水の安定供給を図る。</li> </ul>
対象 ※誰、何に対して	水質検査機器
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質検査に必要な水質検査機器と業務量を把握する。</li> <li>水質検査機器を用いた検査の正確性・信頼性を確保するため、法定耐用年数を基本とし計画的に更新する。</li> <li>効率的な水質検査が行えるよう、更新時には適切な機器を選定する。</li> </ul>

## 【コスト】

		令和3年度(決算)
事業費合計		47,448 千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他	47,448 千円

## 【会計】

会計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	営業設備費

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	0 千円	14,982 千円	47,448 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	令和3年度に液体クロマトグラフ質量分析装置を更新したことにより、検査の迅速化や自己分析項目の一部拡大に向けた体制が整った。引き続き、水質検査の正確性・信頼性の向上を図るため、水質検査機器の維持管理、更新及び充実を進める。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
水質検査に必要な機器保有台数	台	18	20	20

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
水質検査機器の更新台数	台	0	2	2
活動指標 分析結果	液体クロマトグラフ質量分析装置を更新したことにより、水質基準項目のハロ酢酸(クロロ酢酸、ジクロロ酢酸、トリクロロ酢酸)の検査をより迅速に行えるようになった。また、委託分析で実施している水質管理目標設定項目の農薬類について、一部を自己分析できる体制が整った。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
検査機器導入による検査可能項目数(基準)	項目	50	51	51	令和4年度	51
検査機器導入による検査可能項目数(その他)	項目	0	0	0	令和10年度	2
検査機器導入による検査可能項目数(農薬)	項目	0	0	0	令和5年度	102
成果指標 分析結果	委託分析で実施している農薬類について、一部を自己分析できる体制が整ったため、妥当性評価を実施し、農薬類の自己分析を進めていく。さらに、今後検査機器を更新及び購入することにより、残りの農薬類及びクリプトスポリジウム等を自己分析できる体制を整えていく。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	中西条浄水場更新事業	部局名	上下水道局
		課名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	危機に強く安定供給ができる水道の構築
目標	1 施設の更新・耐震化
施策	1 浄水場・水源地の更新・耐震化、3 水需要に応じた水道施設の計画的な更新
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	中西条浄水場は、建設後40年を経過して施設の老朽化が進行し、さらに耐震基準を満たしていない施設もあったことから、現在、計画に基づきそれぞれの施設の耐震化及び設備の更新を順次進めている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	施設の耐震化を行うことにより危機に強い水道の構築を目指し、さらに老朽化した電気及び機械設備をエネルギー効率に優れた設備に更新することで、省エネルギー対策を推進するものである。
対象 ※誰、何に対して	中西条浄水場
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	中西条浄水場整備基本計画(その2)に基づき、順次整備していくものである。

## 【コスト】

		令和3年度(決算)	
事業費合計		690,392	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	337,900	千円
	その他	352,492	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
款		資本的支出
項		建設改良費
目		原浄水施設費

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	0 千円	25,357 千円	690,392 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	令和3年度に2次濃縮槽耐震補強等更新工事が完成した。令和2年度に着手している高架水槽更新工事は、令和4年度に完成を見込んでいる。今後も、中西条浄水場整備基本計画(その2)に基づき、着実に事業を実施する。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
更新対象施設	施設	11	11	11

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
更新工事・設計等業務数	件	0	5	4
更新完了施設数(累計)	施設	7	7	8
活動指標分析結果	令和3年度に2次濃縮槽耐震補強等更新工事が完成した事により完了施設数は増加した。今後、高架水槽更新工事が完成する事によりさらに完了施設数は増加する見込み。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
事業進捗率	%	63.6	63.6	72.7	令和11年度	100
成果指標分析結果	令和3年度に2次濃縮槽耐震補強等更新工事が完成したことにより、進捗率が上昇した。また、令和2年度より着手している高架水槽更新工事が完成すれば、今後進捗率はさらに上昇する見込みである。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	基幹管路更新事業	部局名	上下水道局
		課名	配水課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	危機に強く安定供給ができる水道の構築
目標	2 管路の更新・耐震化
施策	1 基幹管路の更新・耐震化
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	高度経済成長期に整備した基幹管路の老朽化が進んでいることから管路の更新を進めている。また、平成12年度からは、管路整備、更新と合わせて耐震性能を有する継手の管を採用して耐震化に取り組んでいる。令和3年度末での基幹管路(導水管、送水管、配水管(φ400mm以上))は、延長L≒95kmのうち耐震化率は、30.17%、耐震適合率は、43.96%(全国平均40.7%(令和2年度)厚生労働省HP)となっている。 ※耐震適合率:管路が埋設された地盤の形状を勘案すれば、耐震性があると評価できる管の割合
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	大規模地震等の災害に対しても安定して供給できるよう、布設替に合わせて耐震化を図る。
対象 ※誰、何に対して	非耐震基幹管路
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	「管路老朽管更新(耐震化)計画」に基づき、災害時に市民生活への影響が大きい基幹管路を最優先して耐震化を行う。 今後、10年間、城山配水池、福留配水池及びポンプ場からの配水ルート of 更新・耐震化を行う。管路の更新方法については、効率的に更新するために大きなロットでの発注により整備を行う。

## 【コスト】

		令和3年度(決算)
事業費合計		246,775 千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	150,600 千円
	その他	96,175 千円

## 【会計】

会計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	配水施設費

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	804,163 千円	789,429 千円	246,775 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	令和3年度に基幹管路1,488mの耐震化・更新が完成し、耐震化率が上昇した。引き続き、管路老朽管更新(耐震化)計画に基づき、優先度が高い管路から計画的に更新を進めていく。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
基幹管路総延長(延べ)	m	93,220	93,622	95,022

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年間基幹管路布設延長(未供用含む)	m	493	1,250	1,488
基幹管路(耐震化)総延長	m	25,928	27,178	28,666
基幹管路(耐震適合)総延長	m	39,038	40,288	41,776
活動指標分析結果	令和3年度は、東加古川駅前線(第1工区)の1,488mが完成した。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
基幹管路耐震化率	%	27.81	29.03	30.17	令和10年度	50
基幹管路耐震適合率(※参考)	%	41.88	43.03	43.96	令和10年度	-
成果指標分析結果	令和3年度の事業実施により耐震化率が上昇している。更新事業は継続的かつ計画的に実施しているが、大規模ロットによる発注をしているため、繰越工事となった場合には事業実績への反映が後年度送りとなる。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	配水支管更新事業	部局名	上下水道局
		課名	配水課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	危機に強く安定供給ができる水道の構築
目標	2 管路の更新・耐震化
施策	2 配水支管の更新・耐震化
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	令和3年度末での配水支管における耐震化率29.94%、耐震適合率は、34.67%であるが、水需要急増期に整備した非耐震性継手(ビニール管、ダクタイル鉄管)で法定耐用年数40年を超える管路延長が今後も増加傾向にある。 ※耐震適合率:管路が埋設された地盤の性状を勘案すれば、耐震性があると評価できる管の割合
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	老朽管や非耐震性継手管を整備更新することで自然災害等による被害を最小限にとどめ、耐震性に優れた水道管路の構築を図る。
対象 ※誰、何に対して	非耐震性継手管(ビニール管、ダクタイル鉄管、石綿セメント管、高級铸铁管)
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	「管路老朽管更新(耐震化)計画」に基づき、避難所・学校・病院など重要な施設への管路、緊急輸送道路に埋設された管路など重要性の高い管路の更新を面的に行う。

## 【コスト】

		令和3年度(決算)
事業費合計		145,434 千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他	145,434 千円

## 【会計】

会計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	配水施設費

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	325,098 千円	596,922 千円	145,434 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	令和3年度に配水支管の更新を8,102m実施し、耐震化率が上昇した。引き続き、優先度が高い管路から計画的に更新を進めていく。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
配水支管総延長	m	1,024,599	1,031,413	1,037,092

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年間配水支管布設延長(未供用含む)	m	6,134	11,958	8,102
配水支管(耐震化)総延長	m	290,490	302,448	310,550
配水支管(耐震適合)総延長	m	334,521	347,979	359,539
活動指標分析結果	配水支管更新(耐震化)の実績延長は8,102mであり、目標としている年間更新延長(約8,000m/年)を上回った。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
配水支管耐震化率	%	28.35	29.32	29.94	令和10年度	30
配水支管耐震適合率(参考)	%	32.65	33.84	34.67	令和10年度	-
成果指標分析結果	令和3年度の事業実施により耐震化率が上昇している。ビジョンに掲げている配水支管更新事業の目標は概ね達成しているが、耐震化率の向上を図るため引き続き事業の着実に実施していく。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	配水管整備事業	部局名	上下水道局
		課名	配水課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	危機に強く安定供給ができる水道の構築
目標	2 管路の更新・耐震化
施策	2 配水支管の更新・耐震化
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	第4次拡張事業に基づき配水管網の整備事業を実施している。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	給水区域内において、いつでも安定して供給できる水道管路を構築する。
対象 ※誰、何に対して	給水区域内における配水管
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	配水管の未整備箇所に配水管の整備を行い、安定した水道管路を構築する。道路事業の公共事業にあわせて配水管の整備を行う。主な事業としては、尾上小野線及び中津水足線道路改良事業に合わせて配水管を整備する。

## 【コスト】

		令和3年度(決算)
事業費合計		75,969 千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	52,900 千円
	その他	23,069 千円

## 【会計】

会計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	配水施設費

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	31,169 千円	40,876 千円	75,969 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	令和3年度も道路事業に合わせて699mの整備が完了した。今後も道路整備事業の進捗に合わせて沿道土地へ給水するための配水管の整備を進めていく。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
配水管整備延長(予定)	m	830	1,579	1,840

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年	令和2年度	令和3年度
配水管整備延長(実績)	m	363	376	699
活動指標 分析結果	令和3年度に道路整備に合わせて699mの配水管の整備が完成した。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
配水管整備総延長(H28～)	m	1,886	2,262	2,961	令和6年度	7,130
配水管整備率	%	26.5	31.7	41.5	令和6年度	100.0
成果指標 分析結果	道路事業等に合わせて施工を予定していた区間は毎年着実に整備できている。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	広報PR事業(上下水道事業)	部 局 名	上下水道局
		課 名	経営管理課

## 【基本情報】

基本理念	【水道】時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ 【下水】未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道	
方針	【水道】危機に強く安定供給ができる水道の構築 信頼される健全な経営	【下水】信頼される健全な経営
目標	【水道】3 危機管理体制の構築 2 お客さまとのコミュニケーション	【下水】1 持続可能な経営 2 お客さまとのコミュニケーション
施策	【水道】2 住民との連携 2 広報活動の充実	【下水】4 環境にやさしい下水道 2 広報活動の充実
関連根拠法令等		

## 【事業概要】

現状と課題	多様化する住民のニーズ・行政課題に対応するため、情報の発信や提供を行い、市民と行政の情報共有化を図る必要がある。
目的 <small>※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか</small>	上下水道局専用のホームページや広報紙等の媒体を活用して上下水道利用者(お客さま)に対して経営状況や水質検査結果などの多様な情報を発信し、上下水道に関する理解を深めていただくことにより上下水道利用者(お客さま)との良好な信頼関係を構築する。
対象 <small>※誰、何に対して</small>	上下水道利用者(お客さま)
事業内容 <small>※目的達成のための手段・手法</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや上下水道局独自の広報紙を通じ、経営情報、入札・契約情報、水質検査結果、各種手続き、料金に関することなど、上下水道利用者(お客さま)や事業者に対して必要な情報を発信する。</li> <li>・施設見学を実施し、浄水処理・下水処理の過程、施設の現況に関して、上下水道利用者(お客さま)の理解の促進を図る。</li> <li>・オリジナルグッズやマンホールカード等を製作し、上下水道局への親しみを通じてステークホルダーであるお客さまとの信頼関係の構築および理解の促進を図る。</li> </ul>

## 【コスト】

		令和3年度(決算)	
事業費合計		2,868	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他	2,868	千円

## 【会計】

会 計	水道事業会計(下水道事業会計)	
款	事業費用	(事業費用)
項	営業費用	(営業費用)
目	総係費	(総係費)

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	2,578 千円	2,784 千円	2,868 千円

## 【総合結果】

総合評価 <small>※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価</small>	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	かこ水だよりの発行や施設見学会の開催を通じて、情報発信を行うことができた。今後もホームページのリニューアルや様々なツールを活用し、ステークホルダーであるお客さまへ、分かりやすい情報発信に努める。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
給水人口(水道)	人	254,043	252,848	251,025
水洗化人口(下水道)	人	231,577	231,859	232,426

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
施設見学者数(水道)	人	2,212	0	1,840
施設見学者数(下水道)	人	58	0	0
ホームページアクセス数(水道)	回	31,718	44,557	65,359
ホームページアクセス数(下水道)	回	20,707	20,967	20,790

活動指標  
分析結果

水道施設見学者数は、小学校4年生の校外学習など毎年2,000人以上の見学者に浄水の仕組みに関する理解を深めていただいていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により見学の取りやめがあり、平年を下回った。また、加古川下流浄化センターの施設見学は新型コロナウイルス感染症の流行により、昨年度に引き続き年間を通じて開催を取りやめた。

ホームページアクセス数は、下水道ページが平年並みだが、水道ページは11月に発生した加古川南部地域の濁り水に関するページへのアクセスにより、年間アクセス数が大幅に増加した。

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
ホームページ新規ユーザー数(水道)	件	27,800	39,412	61,246	令和5年度	30,000
ホームページ新規ユーザー数(下水道)	件	18,789	19,147	19,199	令和5年度	20,000

成果指標  
分析結果

水道ホームページについて、昨年度は料金減免の影響もあり例年に比べると1万件以上増えていたが、今年度は2万件以上増えている。アクセス数の増加と同程度であることから、加古川南部地域の濁り水の影響が大きいと考えられる。

下水道ホームページについては、新規ユーザー数が水道に比べ少ないことから、各種イベントや発行物など、これまで以上にホームページを宣伝するなど、利用者の方に見ていただく工夫が必要である。

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	漏水防止対策事業	部局名	上下水道局
		課名	配水課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	危機に強く安定供給ができる水道の構築
目標	4 施設の機能維持
施策	1 適正な維持管理
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効・有収率の向上を目標に昭和57年度から年次計画により漏水調査を実施している。</li> <li>・水道ビジョンに掲げる目標値は有収率95.0%である。</li> <li>・漏水は復元すべきものであり、有収率を維持するためには、費用対効果の観点も考慮した上で、年次調査区域割の頻度、細分化、調査手法の検討を要する。</li> </ul>
目的	目標有収率を達成することで安定した水道水の供給を図る。
※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	
対象	給水区域全域
※誰、何に対して	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漏水防止対策指針の「基礎的対策、対症療法的対策、予防的対策」を一体的に推進する。</li> <li>・漏水調査(工法は、リークゾーンテスト、監視型漏水調査、個別音聴調査)</li> <li>・老朽管の布設替(漏水多発管路等)</li> <li>・配水管内の水圧の適正化</li> </ul>
※目的達成のための手段・手法	

## 【コスト】

		令和3年度(決算)	
事業費合計		19,058	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他	19,058	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
会	計	
款		事業費用
項		営業費用
目		配水費

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	18,242 千円	25,854 千円	19,058 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<p>有収率は横ばいで推移していたが、突発的な要因により目標値(95%)を下回ってしまった。今後は、目標有収率の達成を目指し、令和2年度に策定した第12次漏水防止計画に基づきより一層の取り組みを進める。</p>

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
調査対象管路	km	510	510	543

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
リークゾーンテスト	基	2,526	2,526	2,715
活動指標 分析結果	計画通り調査を進めることができ、31箇所の漏水を発見できた。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
有収率	%	95.3	95.1	94.0	令和3年度	95.0
成果指標 分析結果	令和3年度は市南部地域における濁り水の発生に伴う洗管や家庭での放流水により、一時的に有収率が低下したものと考えられる。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	水道料金収納事業	部局名	上下水道局
		課名	お客さまサービス課

## 【基本情報】

基本理念	時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ
方針	信頼される健全な経営
目標	1 持続可能な経営
施策	2 経営基盤の強化
関連根拠法令等	水道法、民法、加古川市水道事業給水条例、地方公営企業法

## 【事業概要】

現状と課題	節水機器の普及や環境意識の高まりに伴う節水意識の定着、企業のコスト縮減努力などによって料金収入は伸び悩み傾向にある。水道事業の財源の根幹となる料金収入の安定的確保と負担の公平性の観点から、納期内納付の促進と滞納整理の強化を図る必要がある。また、お客さまサービスの向上と事業経営の効率化を図るために、平成17年4月より水道お客さまセンターを民間事業者へ全面委託し運営している。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	経営の根幹をなす水道料金を納期限内に着実に収納することにより、安定した経営を図る。未納料金については、債権管理を強化し、お客さま間の公平性を確保する。 窓口の一元化や、支払い方法の多様化を図ることで、お客さまの利便性を向上させる。
対象 ※誰、何に対して	水道の利用者
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	水道料金の収納については、口座振替、コンビニ収納、クレジット支払いや金融機関の窓口等で納付できるよう、納付し易い環境整備を行っている。納期限内に納付されない者に対しては、文書、電話、外勤徴収等による収納業務を行うとともに、2期以上の滞納者については、給水停止等の実効性のある方法も取り入れ収納率の向上を図っている。 窓口や料金等の業務においては、窓口を一元化した水道お客さまセンターを開設し、運営を民間事業者へ委託することにより、民間の優れたノウハウの活用と、事業の効率的な運営を図っている。

## 【コスト】

		令和3年度(決算)	
事業費合計		277,425	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他	277,425	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
会	計	事業費用
款		営業費用
項		業務費
目		

## 【コスト推移】

		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計		257,358 千円	280,190 千円	277,425 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	令和3年度において、現年度、過年度共、収納率の目標を達成することができた。今後も収納事務を適切に行い、収納率の維持に努めていく。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
給水人口	人	254,043	252,848	251,025
水道料金調定額(現年度)	千円	4,378,880	3,722,600	4,429,254

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
水道料金収納済額	千円	3,970,975	3,338,545	4,047,721
活動指標分析結果	給水人口の減少、節水機器の普及や環境意識の高まりに伴う節水意識の定着などによって料金収入は減少傾向にあったが、コロナウイルスに伴う緊急事態宣言による巣籠需要の影響もあり調定額、収納額とも増加している。 なお、令和2年度については、コロナ減免を実施したため、調定額、収納額とも低くなっている。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
収納率(現年度) ※各年度5月末現在	%	90.7	89.7	91.4	令和3年度	91.1
収納率(過年度) ※各年度3月末現在	%	94.4	94.5	94.4	令和3年度	94.4
高額滞納者人数(10万円以上)	人	37	35	35	令和3年度	0
成果指標分析結果	滞納者への早期接触による徴収強化により、過年度収納率は目標値を達成している。 また、高額滞納者(10万円以上)の人数を急激に減らすことは難しいが、継続して分納誓約や納期内納付を確実に履行させることにより減少させていくことが重要である。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和3年度実施事業)

事業名	職員研修事業(上下水道事業)	部局名	上下水道局
		課名	経営管理課

## 【基本情報】

基本理念	【水道】時代の変化を乗り越え 安全な水を未来へつなぐ 【下水】未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道		
方針	【水道】信頼される健全な経営	【下水】信頼される健全な経営	
目標	【水道】1 持続可能な経営	【下水】1 持続可能な経営	
施策	【水道】3 人材の育成・確保	【下水】3 人材の育成・確保	
関連根拠法令等			

## 【事業概要】

現状と課題	上下水道事業を取り巻く環境は将来にわたり厳しくなっていくなかで、職員に求められる知識・能力はより多様化・専門化している。また、経験豊富なベテラン職員が退職により減少している状況もあるため、時代に合った職員の能力開発・資質向上が必要となっている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	外部機関(公益社団法人日本水道協会、日本下水道協会等)が実施する研修に参加して新たな発想や高度な知識・技術を習得することにより、多様化する住民のニーズ・行政課題に対応できる能力・資質を備えた職員を育成する。
対象 ※誰、何に対して	上下水道局職員
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	経験年数等により必要とされる能力に応じた研修を受講して知識・専門技術等を身に付けることができるよう、外部機関(公益社団法人日本水道協会、日本下水道協会等)が実施する研修に計画的に職員を派遣する。

## 【コスト】

		令和3年度(決算)
事業費合計		2,442 千円
財源内訳	国庫支出金	0 千円
	県支出金	0 千円
	地方債	0 千円
	その他	2,442 千円

## 【会計】

会計	水道事業会計(下水道事業会計)
款	事業費用 (事業費用)
項	営業費用 (営業費用)
目	総係費 (総係費)

## 【コスト推移】

	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)
事業費合計	3,909 千円	526 千円	2,442 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	コロナ禍による制約により、令和元年度の人数や時間には及ばなかったものの、令和3年度は現地での受講だけでなくオンラインを活用する等により一部研修に参加することができた。引き続き、職員の能力開発・資質向上を図るため、外部機関(公益社団法人日本水道協会、日本下水道協会等)が実施する研修に職員の参加・派遣を推進していく。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
水道会計職員数(※再任用職員除く)	人	46	46	48
下水道会計職員数(※再任用職員除く)	人	34	36	35
再任用職員数(水道)	人	12	7	7
再任用職員数(下水道)	人	5	4	3

## 【事業実績】

活動指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
派遣研修修了者数(延べ・水道)	人	81	27	41
派遣研修修了者数(延べ・下水道)	人	31	16	29
活 動 指 標 分 析 結 果	<p>派遣研修修了者数は、これまで水道は80人前後、下水道は30人前後を例年推移していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により研修会が中止したこと、また、職員の感染防止の観点から研修会への派遣を自粛したため派遣研修修了者数が大幅に減少した。</p> <p>令和3年度においても当初は同じ状況が続いていたが、感染対策としてオンライン等を利用した研修も増え、派遣研修修了者数も増加した。</p>			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度	目標値
外部研修時間【水道】(※)	時間	17.9	3.9	5.0	令和5年度	14
外部研修時間【下水道】(※)	時間	10.9	4.5	8.9	令和5年度	15
成 果 指 標 分 析 結 果	<p>職員1人あたりの研修時間を平均的に表している。</p> <p>組織として効果的な派遣研修を行うため、担当課ごとの予算を集約し、経験年数に応じた技術や知識の習得を計画的に推進していく取り組みを行っている。</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により研修会が中止したこと、また、職員の感染防止の観点から研修会への派遣を自粛したため大幅に減少した。</p> <p>令和3年度においても当初は同じ状況が続いていたが、感染対策としてオンライン等を利用した研修も増え、外部研修時間も増加した。</p> <p>(※)外部研修時間・・・(研修時間×研修受講人数(再任用職員除く)／全職員数(再任用職員除く))</p>					